

【児童の実態】
 ・生活習慣が確立できていない児童が一定数いる。
 ・毎日朝食をとる児童の割合は96%である。
 ・食の指導や体験を楽しみにしている児童が多い。

【保護者の実態】
 ・食生活への関心は二極化しており、家庭によって朝食内容等に大きな差がある。

【学校教育目標】
 夢を持ち 自ら学ぶ ～「挑戦」そして「感謝」～

【本中学校区で育成すべき資質・能力】
知識・技能 思考力・判断力・表現力 主体性・粘り強さ

【食育推進目標】（和庄中学校区食育推進目標）
 9年間を通して望ましい食生活の基礎・基本を身に付けた児童生徒の育成

【第3次食育推進計画(呉市)】
 ・朝食を毎日食べている人の割合の増加
 ・栄養バランスと量を常に考えている人の割合の増加
【都道府県食育推進計画】
 ・主食・主菜・副菜をそろえて食べるようにする
【教育委員会指導指針】
 ・一人一人が、生涯にわたって主体的に学び続け、多様な人々と協働して新たな価値を創造する人づくりの実現

食育の視点
 ◇食事の重要性
 ◇心身の健康
 ◇食品を選択する能力
 ◇感謝の心
 ◇社会性
 ◇食文化

【食に関する指導の目標】

(知識・技能)
 食事の重要性や栄養バランス、食文化等を理解し、健康で健全な食生活に関する知識や技能を身に付けている。

(思考力・判断力・表現力)
 食生活や食の選択について考え、正しい知識・情報に基づき、自ら管理したり判断したりすることができる。
 (学びに向かう力・人間性等)
 主体的に、自他の健康な食生活を実現しようとしたり、食や食文化、食料の生産等に関わる人々に対して感謝する心を育み、食事のマナーや食事を通じた人間関係を形成する能力を養ったりする態度を身に付けている。

幼稚園・保育所
 幼保連携型認定
 こども園

・食に関わる体験を積み重ね、食べる喜びや楽しさ、食べ物への興味や関心を通じて自ら進んで食べようとする気持ちを育てる。

各学年の食に関する指導の目標		
1・2年	3・4年	5・6年
・食べ物に興味・関心を持ち、楽しく食べることができる。[学/食] ・好き嫌いせずに食べることの大切さを考えることができる。[知/健] ・正しい手洗いや良い姿勢でよく噛んで食べることができる。[知/健]	・健康に過ごすために、1日3食バランスよく食べようとするができる。[知/食・健] ・協力したりマナーを考えたりすることが相手を思いやり楽しい食事につながる事が分かり、実践することができる。[学/社] ・日常の食事が地域の農林水産物と関連していることが理解できる。[思/文]	・栄養のバランスのとれた食事の大切さを理解し、食文化に興味・関心をもつことができる。[思/健・文] ・食品の安全に関心を持ち、衛生的に簡単な調理をすることができる。[学/選] ・食事にかかわる人々や自然の恵みに感謝して食べることができる。[思/感]

中学校

・食品に含まれる栄養素や働きについて理解し献立や調理に関心を持ち、日常生活に生かしていくことができる。[学/健・選]

食育推進組織（保健体育部）
 委員長：保健主事 委員：保健主事、給食主任、体育主任、学級担任

【食に関する指導】
教科等における食に関する指導：関連する教科等において食に関する指導の視点を位置付けて指導
 社会、理科、生活科、家庭科、体育科、国語科、外国語科、道徳科、総合的な学習の時間、特別活動 等

給食の時間における食に関する指導
 食に関する指導：学校給食の献立を通して食品の産地や栄養的な特徴、食文化等の学習、教科等で学習したことを確認、給食放送、等
 給食指導：準備から片付けまでの一連の指導の中で、正しい手洗い、配膳方法、食器の並べ方、箸の使い方、食事のマナー等を体得、感染症予防に関する指導 等

個別的な相談指導：肥満・やせ傾向、食物アレルギー・疾患、偏食、スポーツ等の健康相談、欠席状況・健康観察による健康状態からの対応 等

【地場産物の活用】
 献立委員会：年間計画に基づき、計画的に呉市産及び広島県産の食材や郷土料理を献立に取り入れる。（年6回）
 物資購入委員会：できるだけ県内産物資、国産物資を選定する。
 実物展示や掲示物の作成、放送や給食カレンダーを使用した指導等で、教科等の学習や体験活動と連携を図る。

【家庭・地域との連携】
 健康や食育、給食について家庭・地域の理解と協力を求めるとともに、家庭における食生活改善の関心を高める。
 給食献立表や給食だより等の発行、元気っ子週間（アウトメディア早寝早起き朝ごはん）の実施、参観懇談会、学校保健委員会の開催、適塩・呉市防災週間の取組、作品応募の紹介、ホームページ 等

【食育の評価】
 活動指標：計画に基づき食に関する指導を推進することができたか。関係教職員と家庭との連携・調整ができたか。
 成果指標：毎日朝食をとる児童の割合95%以上（学校評価アンケート）